

新型コロナウイルス感染症の感染リスクが高まる

5つの場面に 気をつけよう

これまでの事例の分析により、新型コロナウイルス感染症への感染リスクが高まる具体的な状況がわかってきました。

次のようなことに気をつけながら日常生活を過ごしましょう。

こんなときは要注意！ ～感染リスクが高まります～

新型コロナウイルス感染症対策分科会資料より作成

場面1 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響による気分の高揚と注意力の低下。また聴覚が鈍くなり、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間での長時間、大人数での滞在。
- 回し飲みや箸などの共用。



場面2 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒。
- 大声になり飛沫が飛びやすい大人数、例えば5人以上の飲食。

場面3

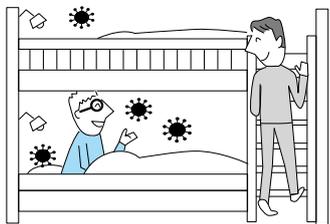
マスクなしでの会話

- マスクなしの近距離での会話。飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- 車やバスで移動する際の車中。

場面4

狭い空間での共同生活

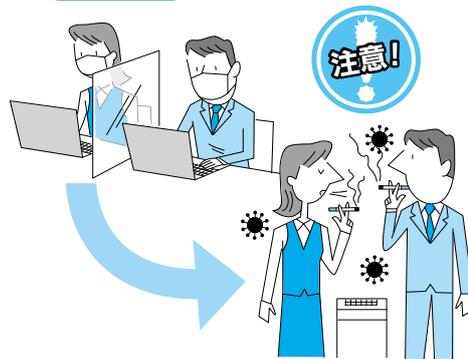
- 狭い空間での共同生活。長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため。



寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例あり。

場面5 居場所の切り替わり

- 仕事で休憩時間に入ったときなど。居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により感染リスクが高まる。



休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例あり。

会食するときは 感染リスクを下げる工夫をしよう

- ▶ 飲酒をするのであれば、
 - ① 少人数・短時間で、②なるべく普段一緒にいる人と、③深酒・はしご酒などは控え、適度な酒量で。
- ▶ 箸やコップは使い回さず、一人ひとりで。
- ▶ 座の配置は斜め向かいに（正面や真横はなるべく避ける）。
- ▶ 会話する時はなるべくマスク着用。^{*}
- ▶ 適切な換気などの工夫をしている、感染症予防対策のガイドラインを遵守したお店で。
- ▶ 体調が悪い人は参加しない。



食事の際に、正面や真横に座った場合には感染したが、斜め向かいに座った場合には感染しなかった事例あり。

^{*}フェイスシールド・マウスシールド^{*1}はマスクに比べ効果が弱いことに留意が必要^{*2}。

^{※1}フェイスシールドはもともマスクと併用し眼からの飛沫感染防止のため、マウスシールドはこれまで一部産業界で使われてきたもの。

^{※2}新型コロナウイルス感染防止効果については、今後さらなるエビデンスの蓄積が必要。